

備前市事務事業評価表

事務事業名	農業集落排水施設管理運営事業	コード	01-01-10-06
		担当課・係	下水道課施設管理係
		担当者	福田昌晃
事業実施期間	平成5年10月～	電話	0869-63-2330
総合計画 事業（政策）体系	大項目(基本目標)	安全で快適に暮らせるまちづくり	
	中項目(基本施策)	生活しやすいまちづくり	
	小項目(施策)	下水道	

事業について	
目的 (何のために)	農村生活環境の改善をはかり、併せて公共用水域の水質保全に資する。
対象 (誰・何を対象に)	排水施設使用者及び不特定多数
内容	農村集落排水施設2ヶ所及び管渠、マンホールポンプ設備の維持管理。

事業の結果				
実施項目	17年度	18年度	回数など(単位)	
処理水量	10,627	24,978	m3	
処理水質BOD値	11 mg/ℓ	9 mg/ℓ		
汚泥処分量	16	16	m3	
接続人口	74	389	人	
水洗化率	100%	61%		
事業費 (単位：千円)	事業費	財源	事業費	財源
	直接事業費 15,699	国庫補助金等	直接事業費 26,220	国庫補助金等
	人件費 1,780	受益者負担	人件費 2,055	受益者負担
	合計 17,479	市債 一般財源等	合計 28,275	市債 一般財源等
必要人員	0.25	0.32	人	
結果指標 ①	結果指標名	処理水量	処理水量	
	結果指標量	10,627	24,978	
	単位	m3	m3	
	対前年比	-	235.04%	0.00%
	活動にかかるコスト	17,479,000	28,275,000	円
単位当たりコスト①	1,644	1,132	円	
結果指標 ②	結果指標名	接続人口	接続人口	
	結果指標量	74	389	
	単位	人	人	
	対前年比	-	525.68%	0.00%
	活動にかかるコスト	17,479,000	28,275,000	円
単位当たりコスト②	236,202	72,686	円	

事業の成果			
どのような成果を得ようとしているか	排水施設の処理機能を維持し、処理水の水質を良好に保つ。		
成果指標名	BOD値	式又は説明	生物化学的酸素要求量：水中の有機物が微生物の働きによって分解される時に消費される酸素量。大きい値ほど汚れが甚だしい事を示す。
	17年度	18年度	
成果指標量	11	9	
対前年比	-	81.82%	0.00%
到達目標値	20	到達目標年度	毎年度

事務事業の評価		(平成18年度事業)	
目的・対象・内容の妥当性評価	目的の妥当性	<input checked="" type="checkbox"/> 関係法令等で目的が定められており妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化しつつある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的は妥当である 関係法令等： 浄化槽法、水質汚濁防止法	妥当性評価<A~E> B
	対象の妥当性	<input type="checkbox"/> 受益者の拡大を検討する余地がある <input type="checkbox"/> 受益者の縮小を検討する余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 現在の対象者は妥当である	浄化槽法、糞汚濁防止法等の規定に基づき、公共用水域の水質保全及び農村生活環境の改善を図るため、汚水処理施設の管理を行う。
	市民ニーズの妥当性	<input type="checkbox"/> 市民、団体などから要望・要請のある事業である <input type="checkbox"/> 市民に概ね好評な事業である <input checked="" type="checkbox"/> 公共秩序の維持、行政の適正運営に必要な事業である	
市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 国・県又は関係法令で定められている事業である <input type="checkbox"/> 民間に類似サービスがある <input type="checkbox"/> 本市が関与すべき事業である <input checked="" type="checkbox"/> 事業を取り止めた場合の影響は大である		
効率性の評価	コストの効率化	<input type="checkbox"/> 単位当たりコストは増加傾向にある <input checked="" type="checkbox"/> コスト削減の努力をしている <input type="checkbox"/> できる限り民間活力を利用している <input type="checkbox"/> 受益者負担額は適正である	効率性評価<A~E> B
	手段の最適化	<input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で確認・見直しを行っている <input checked="" type="checkbox"/> 他に有効な代替手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 事業は他部署と密接な連絡調整を行っている	大股清水苑に加え平成18年度に新庄浄化センターが供用開始し、処理水量、接続人口が増えたため単位当たりコストは下がった。今後も新庄地区の接続人口の増によるコストダウンが見込めるが、一方大股清水苑の修繕によるコスト増の要因も存在する。
	職場の効率化	<input type="checkbox"/> 事業に関して事務改善等作業効率の向上に努めている <input type="checkbox"/> 事業に関するOJT（職場研修）は行われている <input checked="" type="checkbox"/> 事業の進行管理を定期的に行っている <input type="checkbox"/> 事業実施について職員の意見・要望が反映されやすい	
目的達成度	<input checked="" type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標は前年度より向上している	有効性評価<A~E> C	
有効性の評価	成果向上の可能性	<input type="checkbox"/> 成果は向上しており今後も向上する見込みである <input checked="" type="checkbox"/> 今後、成果指標は向上する余地がある	課題認識
	市民参画度	<input type="checkbox"/> 事業について積極的に情報提供している <input type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映している <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプラン作りから市民参加を得る手段をとっている	

事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

平成19年度の状況	<input type="checkbox"/> 重点化している <input checked="" type="checkbox"/> 前年度と同様に継続している <input type="checkbox"/> 見直し継続している <input type="checkbox"/> 事業を縮小している	<input type="checkbox"/> 休止している <input type="checkbox"/> 他の事業と統合している <input checked="" type="checkbox"/> 平成18年度で廃止・完了	説明	施設の維持管理は前年と同様に行っている。
目標値	結果指標量①	27000m3	結果指標量②	420人
	成果指標量	BOD 10mg/ℓ		

総合評価	水質は概ね良好であり、引き続き処理機能を十分発揮できるよう維持管理を行う。	評価区分<A~E> C
------	---------------------------------------	-------------

平成20年度以降の方向性	<input type="checkbox"/> さらに重点化する(行政資源を集中的に投入する) <input checked="" type="checkbox"/> 現状のまま継続する <input type="checkbox"/> 見直しのうえで継続する	<input type="checkbox"/> 事業の縮小を検討する <input type="checkbox"/> 休止・廃止を検討する <input checked="" type="checkbox"/> 平成19年度で廃止・完了 <input type="checkbox"/> 他の事業と統合を検討する
--------------	---	---

平成20年度以降の改善事項			
評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果